

注記事項 [第一号勘定]

[貸借対照表関係]

・有価証券関係

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位:円)

	種 類	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	国債・地方債等	19,983,396,497	20,624,650,000	641,253,503
	小 計	19,983,396,497	20,624,650,000	641,253,503
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	国債・地方債等	1,998,883,634	1,981,860,000	-17,023,634
	小 計	1,998,883,634	1,981,860,000	-17,023,634
合 計		21,982,280,131	22,606,510,000	624,229,869

2. 満期保有目的の債券の今後の償還予定額 21,982,280,131

	1年以内	1年超5年未満	5年超10年未満	10年超
国債・地方債等	1,749,328,553	12,289,534,602	7,240,775,160	702,641,816
合 計	1,749,328,553	12,289,534,602	7,240,775,160	702,641,816

・固定資産の減損関係

1. 減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、帳簿価額等の概要 (単位:円)

資 産 名	鉄 鋼 館	万 国 橋
用 途	展 示 館	連 絡 橋
種 類	建 物	構 築 物
帳 簿 価 額	123,296,152	14,488,354

2. 認められた減損の兆候の概要

固定資産が使用されている方法について、現状において当該資産の使用可能性を著しく低下させる変化が生じていることから、減損会計基準「第3減損の兆候」第2項(3)に該当し、減損の兆候が認められる。

3. 減損の認識をしない理由

鉄鋼館及び万国橋については、使用する合理的な計画を有し、改良を加えることにより全部の資産の使用を予定しているため、減損の認識をしない。

[キャッシュ・フロー計算書関係]

1. 資金の期末残高の貸借対照表科目別内訳

現金及び預金	1,327,531,130 円
資金期末残高	1,327,531,130 円

2. 重要な非資金取引

ファイナンス・リースによる資産の取得

車両運搬具	4,562,661 円
工具器具備品	13,793,724 円
計	18,356,385 円

[行政サービス実施コスト計算書関係]

1. 引当外退職給付増加見積額

引当外退職給付増加見積額は、国及び大阪府からの出向職員にかかるものであります。

2. 機会費用の計上方法

政府出資金及び大阪府出資金の機会費用の計算に使用した利率は、国債利回り等を参考に1.275%としております。

[重要な債務負担行為]

該当なし

[重要な後発事象]

該当なし